

## 論文の内容の要旨

### 論文題名

試験管法を用いたセルブロックにおける垂直断面（VSS）観察と水平断面（HCS）の腫瘍細胞分布と細胞量

### 掲載雑誌名

日本臨床細胞学会雑誌 第61巻 第5号 2022年 掲載予定

医学研究科病理系臨床病理診断学専攻 濱川 真治

### 内容要旨

【背景・目的】分子病理学的検査においてセルブロック（CB）内の腫瘍細胞（TC）含有率は、重要因子の一つである。その算出にはTC分布やTC量の評価が課題であり、試験管を用いたCB作製法（試験管法）において、垂直断面（VSS）観察によるTC分布と細胞量について、水平断面（HCS）観察との比較をした。

【方法】胸水材料87検体を対象とした。VSSでは、TC分布を評価するため3層（A, B, C層）に分けた。また、VSS3層とHCSの各層のTCをカウントし、100個以上（TC-H）と100個未満（TC-L）の2群に分類し比較した。

【結果】VSS・TC-H群57検体、VSS・TC-L群30検体、HCS・TC-H群47検体、HCS・TC-L群40検体であった。VSS・TC-H群57検体中15検体にTC分布に偏りがみられた。一方、HCS・TC-H群47検体中6検体、HCS・TC-L群40検体中9検体にTC分布に偏りがみられ、B層およびC層にその傾向がみられた。

【考察】TC-H群とTC-L群の2群の比較において、VSS-A層やHCSにおいてTCが認められない検体が見られ、HCS・TC-L群においては腫瘍細胞の偏り（UDS-TC）があり、VSS-B層およびC層にその傾向が認められた。その要因として、細胞や集塊の大きさや比重、TC量によってUDS-TCが生じたものと考えられた。したがって試験管法によるCBのVSS観察はTC分布とTC量の評価により、TC含有率への応用に期待され、さらにTC層をターゲットにしたダイセクションを行うことによるTC含有率向上は、分子病理学的検査の精度向上においても貢献するものと考えられた。